

日 時	令和6年3月15日（金）18:30～
会 場	北広島市役所3階 会議室3D
出席委員	橘会長、山口委員、高嶋委員、原口委員、米一委員
傍 聴 者	0名
市出席者	【市民環境部】阿部部長、山田次長 【市民生活課】高橋課長、立野主査、中島主事

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、会議が成立していること」を確認。
議長から原口委員を会議録署名委員に指名。

2. 報告事項

報告事項（1）公益活動事業補助金の変更について、事務局から説明

～質問・意見～

○A 委員

資料4ページの変更前の地域まちづくり推進事業について、市内5地域に予算を配分とあるが、具体的に地域というのは、特定の団体や自治会のことか。

●事務局

地域とは、市内を大きく分けた、東部・西の里・団地・西部・大曲の5地区のこと。それぞれの地区に市の担当者を置いて、担当者が地域の申請者とやり取りをして採択するかどうかを決定する、というような事業。

時代の流れとともに申請件数が減っていき、各地域に配分という形が、まとめて市全体で担当課が予算を所管して地域の方とやり取りをするという方式に変わっていった経緯がある。

○A 委員

同じく4ページの表の変更前の欄に「予算の範囲内で補助」とあるが、変更後は何か変わるのか。

●事務局

変わらず、変更後も同じ考え。予算の範囲内での交付となる。

○B 委員

予算は全体でどれくらいついているのか。

●事務局

まだ議決を取っていない段階なのであくまで案となるが、全体で100万円。

○A 委員

予算規模は今年度と同じか。

●事務局

今年度は全体で40万円なので予算額としては拡大している。

○B 委員

予算は毎年使いきっていたのか。

●事務局

令和5年度は2件申請があり、予算上限まで交付した。令和4年度は申請段階では40万円執行予定だったが、取下げがあったので結果的には執行残が生じた。

○議長

今回から上限が40万円から30万円になる。

○C委員

すごくわかりやすくなった。地域型コースは、今まで地域まちづくり事業として申請していたものがこちらになるという認識で問題ないか。

●事務局

そのとおり。

報告事項（2）令和5年度市民協働推進事業の実績報告について、事務局から説明

～質問・意見～

○議長

北ひろしま福祉会のイベントに行かれた方はいらっしゃいますか。

○D委員

トークショーは参加していないが会場には行った。期間中は常に展示されており、非常にボリュームな展示。

○議長

2つの事業については、来年度事業評価にて詳細を報告してもらうので発表に期待したい。次に、市民参加・協働セミナーに参加された方はいらっしゃいますか。

○C委員

1回目に参加した。アンケートの回答に私の回答があるが、講演自体は興味深く、聞きたいと思っていた内容で良かった。

今年度、地域のイベントの実行委員会で実際にLINEを使用した。オープンチャットではなく、通常のグループだったが、グループの人数が多くて苦勞した。また、アカウントを別に設定できるオープンチャットと違ってLINEでつながることに対していやがる人もいた。オープンチャットを知っていればその部分は解決されていたと思う。最終的にLINEのグループ人数が50人くらいになったが、何か意見が出ると書込みが続きすぐ未読が50～60くらい溜まってしまう。

そういったやり方の問題点や解決方法を聞いたかった。デジタル化するにあたって、どういう方法が一番整理しやすかったのか。

●事務局

今後、デジタル化のセミナーを行う際には、今回うかがった内容含め、参加された方の意見を踏まえて事業を進めていきたい。

○D委員

セミナーの日程が、1回目は冬まつりの日、2回目は木曜日で平日ということもあり、若い人は参加できない。メニューをみると、今携わっている高齢の自治会役員がターゲットという

のは分かるが、若い方を取り込むために市ではどのように考えているのか。

●事務局

日程については、今後は大きな行事と重ならないように配慮したい。2回目については、NPOで活動されている方を主な対象にしており、平日の勤務時間中に参加したいという声もあったので、今回試しにこういう日程にさせていただいた。今後、今いただいた意見も踏まえて検討し直したいと思います。

若い方とどうやってつながっていくかという点については、我々も課題として捉えているところ。2回目の講演では、消費者協会等の団体や町内会も含め、担い手の多くは高齢者になっている実態があり、今後若い世代につなげていかななくては活動が先細りしてしまうという問題点を提起していただいた。また、若い人はSNSを使って情報を取っており、若い人に活動を知ってもらうには、InstagramやLINEといったSNSなどを活用して情報を発信していく必要があるというお話があり、第2部のワークショップではそのお話を参考に、参加者の方にお互い情報共有をしてもらった。若い人の取り込みとして、SNSの活用は一つの手段でしかないかもしれないが、有効な手段だと思う。

講演では、デジタルツールが接点のカギということで、地元の高校生等の若い世代との接点づくりとして、町内会から若い世代の人たちに町内会のHPなどの更新作業をお願いするという事例紹介もあった。現状は、発信した情報が届いておらず、何をしている団体かわからないと思われがちで、どうやって情報を発信するかが大きな課題となっているため、こうした取り組みにより見てもらう可能性を高めたり、地元の若い世代に活動内容を知ってもらう。高齢者の方にとってLINE等のハードルが高ければ、近所の高校生に教えてもらうようなつながりができればいいというお話もしていた。

ワークショップの中で、団体で実際に実施しているイベントを書き出して、そのイベントの対象は誰なのか書いてみるというワークが紹介されていた。実際にリストアップしてみると対象が高齢者ばかりで、これでは若い人が来ないよねと言った形で、課題を見える化して、若い人はどうやったら来るのか、どうやって情報発信したらいいのかを考えるきっかけになるとのこと。

○議長

ひとつのセミナーで複数の講師にお話をしてもらおうと、それぞれの視点でのお話が聞けるかもしれないので、面白いかもしれない。

○A委員

最後に来年度以降の公益活動事業補助金の審査に関して、手引きを基に申請してくるかと思うが、審査の時間も限られているため、書類で内容がわかるよう、申請事業についてできるだけ具体的に書いて欲しい。支出の具体的な中身も事業の概要に書いてもらうようにしたら審査がスムーズにいくかと思う。

3. その他

《事務局から次回の会議の開催についての連絡》

4. 閉会